



環境方針

当社は、地球環境と自然保全に努め、より安全な製品を提供し続けて『環境のカンボウ』を目指します。

『環境基本方針』

当社は産業資材、工業資材、生活資材及びその他の樹脂加工繊維製品の生産を中心とした企業活動において、環境負荷の低減を目指し、以下の方針に則って行動します。

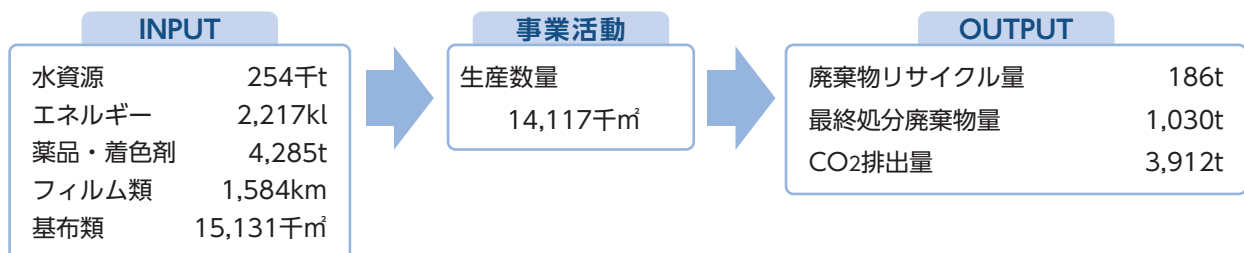
1. 当社は、地域社会と協調し、対話を大切にし、環境管理活動を通じて社会に貢献します。
2. 当社の事業活動において、省資源、廃棄物の削減、環境負荷物質の管理を行い、汚染の予防を含めた、より良い環境の維持、向上に取り組みます。
3. 定期的な内部環境監査の実施により、環境管理活動の実施状況と結果を確認し、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。
4. 当社の事業活動に関係する環境関連法規制及びその他の要求事項を遵守します。
5. 当社の事業活動にかかわる環境側面について、環境目的及び目標を設定します。
また、環境目的及び目標は、環境方針と共に、年一回見直しを行います。
6. 環境方針は、環境方針書として文書化し、環境マネジメントシステムにより実行、維持します。
7. 環境方針は、全従業員に周知認識し、方針に則って行動するように、全従業員に対する教育、訓練を実施します。

本環境方針は、インターネットを含めて全ての人に公表します。

改定 2020年4月1日

事業活動における環境負荷(福井工場)

当社では、事業活動におけるエネルギー・資源の使用量 (INPUT) と環境への排出量・廃棄物量 (OUTPUT) を正確に把握することにより、総合的に環境負荷の低減に努めています。



環境負荷低減製品開発への取り組み

近年、お客様からの環境配慮の要望は新製品開発のみならず、これまでに提供した製品の仕様変更といった形でも増えています。環境推進地域である欧州において様々な化学物質の規制が進められている中、材料選定の見直しや、バイオマス素材の使用など、グリーンな製品設計を進めています。

今後もカンボウプラスでは、様々な要望に合わせて使用する材料の変更を進めるとともに、安全安心の観点からグリーン材料での製品開発に取り組んでいきます。

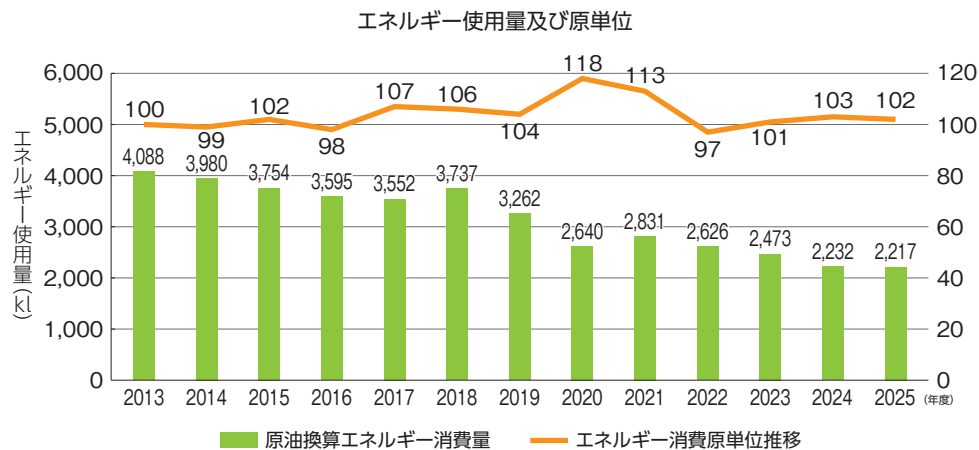


エネルギー消費量削減への取り組み

昨年度は生産設備、事務棟のLED化を実施しました。福井工場の照明のLED化は96%となりました。また高効率モータへの更新を行い使用電力の削減を行いました。蒸気設備関係では蒸気使用量が増加する冬季前にスチームトラップの点検、交換を実施しました。

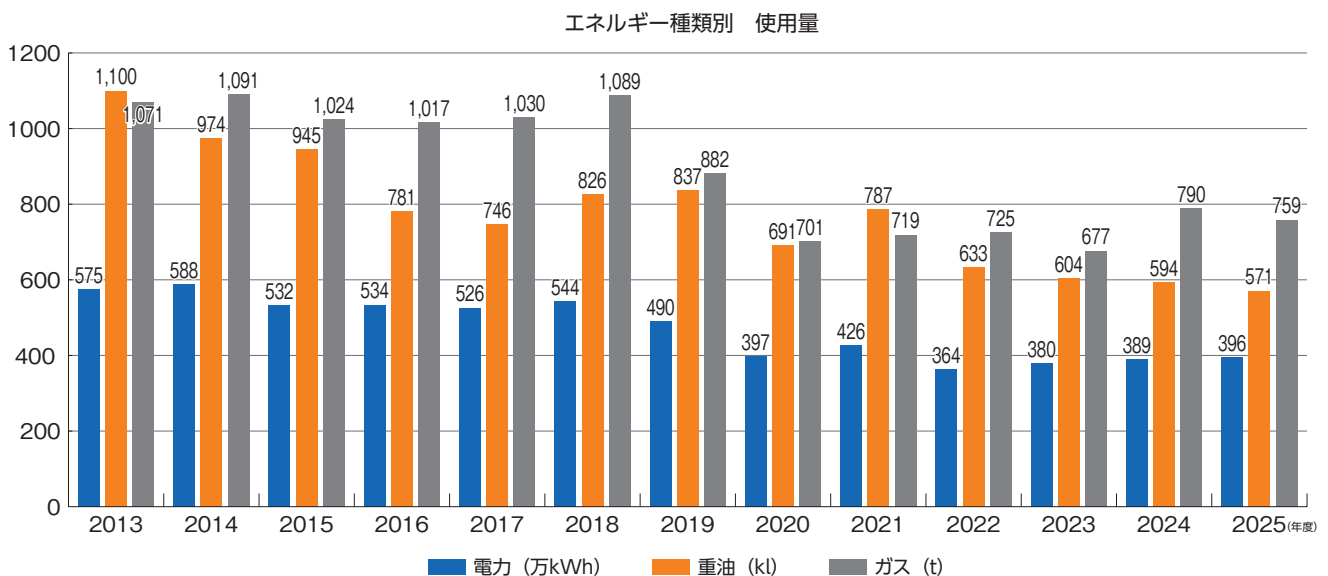
2024年度と比較し生産数量（㎡）はほぼ同量でしたが、エネルギー消費原単位では、前年より約1.5%削減することが出来ました。

引き続き照明のLED化、保温材の補修、スチームトラップの状態監視を継続実施致します。また、本年度は省エネ設備の導入を計画しています。



(注) 2013年度を100とした場合の指数表示となっています。

エネルギー種類別の使用量では、2013年度に対し、電力 31%、重油 48%、ガス 29%の削減となっています。原単位と共に総使用量の削減に努めていきます。



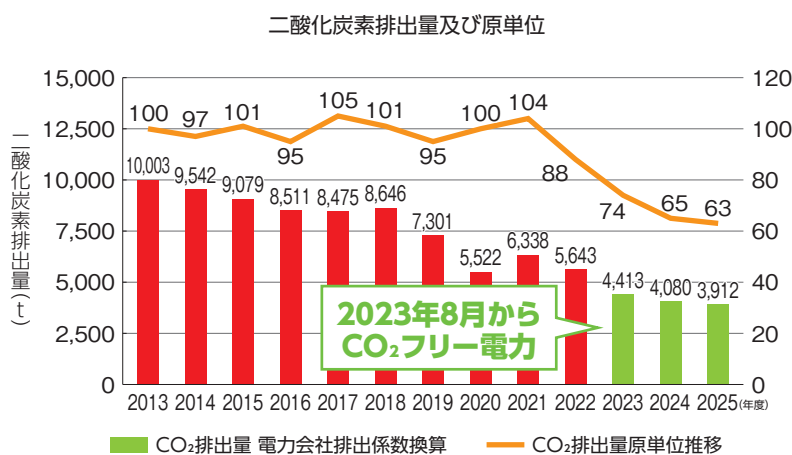


CO₂排出量削減への取り組み

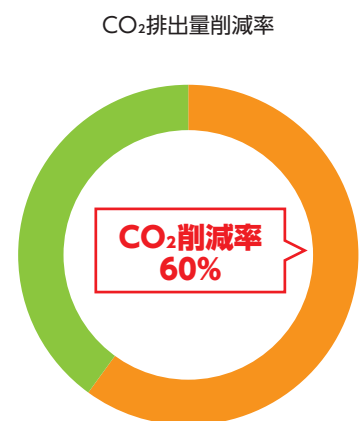
地球環境を考える上で、企業のCO₂排出量削減への取り組みは非常に重要な役割を担っています。CO₂排出量削減の取組として、照明のLED化（水銀灯含む）・省エネ設備導入・CO₂フリー電力の活用・環境負荷低減商品の開発・廃棄物削減の取り組み・クールビズ・ノーマイカーデーなどの取組を従業員一丸となって推進しています。

2023年8月より工場用電力は「再生可能エネルギー指定の非化石証明書の使用により、実質的に、再生可能エネルギー100%」の電力契約となっております。CO₂フリー電力を使用することにより、CO₂を排出する電力を使用する場合と比較すると2023年度で約1,223t、2024年度で約1,847t、2025年度で約1,728tのCO₂排出量を抑制することができています。

CO₂排出量につきましては、2024年度と比較すると昨年度は約4.1%の削減となりました。



(注) 2013年度を100とした場合の指数表示となっています。

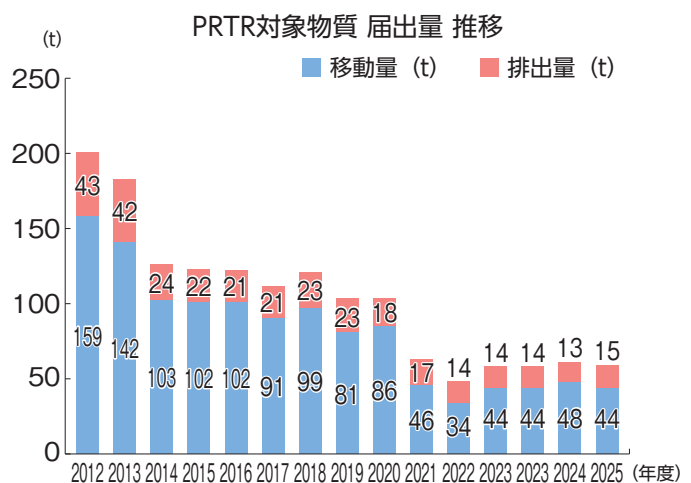


2013年度比

PRTR法への対応

当社では環境負荷低減に向け、PRTR対象物質全体の把握と排出・移動量の削減に努めています。削減を進めてきたDEHP（フタル酸ビス（2-エチルヘキシル））は代替化が進み、2025年度にはほぼ全廃を達成しました。

一方で、2023年度より報告対象に追加されたMCCP（塩化直鎖パラフィン 炭素数14-17）をはじめ、環境への影響が懸念される主要な化学物質が新たな管理課題となっています。今後は、MCCPをはじめとする各化学物質の代替化や使用量削減への取り組みを全社でさらに加速させていきます。

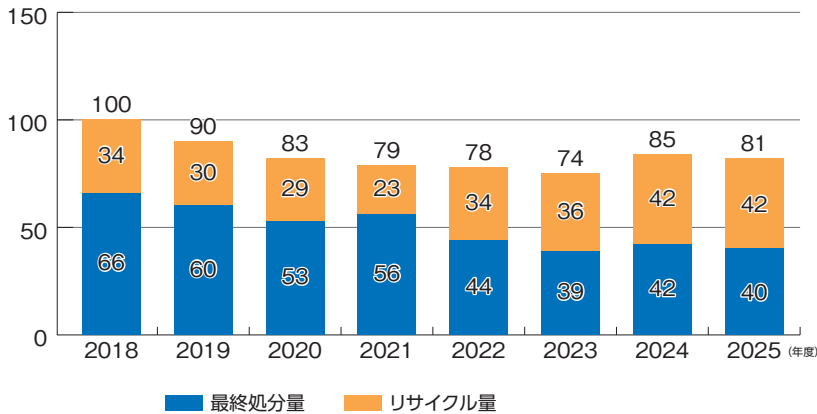


廃棄物削減への取り組み

昨年度と比較して生産量が減少したことに伴い、廃棄物総量も減少しました。

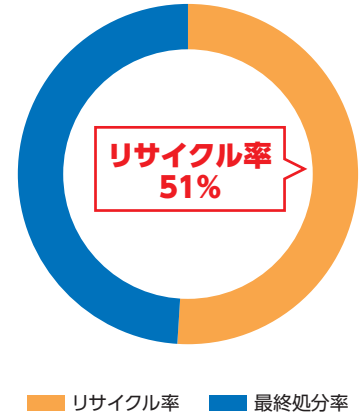
一方、リサイクルおよびリユースの取り組みを推進した結果、リサイクル率は向上しています。今後も、再生が困難な廃棄物の削減を図るとともに、さらなる再生促進に取り組んでいきます。

廃棄物・リサイクル量推移



(注) 2018年度を100とした場合の指数表示となっています。

2025年度リサイクル率



グリーン推進活動

2025年度も「第15回ニチバン巻芯ECOプロジェクト」および「エコキャップ回収運動」に参加しました。

巻芯は、ニチバン株式会社を通じて段ボールに再生することで得られる利益が森の植林活動に役立てられ、ペットボトルキャップは特定非営利活動法人エコ・ワクチン協力会を通じて、プラスチックとして再利用することによって得た利益がワクチン購入代金に使用されます。今後も継続して活動を行っていきます。



当社では、各事業所周辺の美化活動を継続的に実施しています。

本社では、2026年2月に「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加し、空き缶や吸い殻などのゴミ拾いを行いました。

